

試験研究成果普及情報

部門	経営	対象	行政・研究・普及
課題名：家畜糞堆肥の機能等に関する利用者の意識			
<p>[要約] 家畜糞堆肥は、総体的には、肥料的機能より土壌改善機能を重視して利用される傾向にあるが、牛糞系・豚糞系では、土壌改善もしくは両機能への意識が、鶏糞系では肥料的機能の意識が強い。堆肥の販売戦略上、牛糞系・豚糞系は機能の明確化、臭気や施用による障害原因の除去、鶏糞系は、コストパフォーマンス、表示、品質保証の明確化が重要である。</p>			
キーワード* (専門区分) 経済構造 (研究対象) 農耕地土壌一畑 (フリーワード*) 堆肥 家畜糞 露地野菜 施設野菜 牛糞 豚糞 鶏糞			
実施機関名(主査) 農業総合研究センター 企画調整部 経営調査室 (協力機関) JAちばみどり (実施期間) 2001年度～2002年度			

[目的及び背景]

家畜糞堆肥等の資源循環に関する政策の企画立案及び研究開発に貢献するため、家畜糞堆肥利用者の意識を検討する。

[成果内容]

1. 県内の露地野菜大規模専業経営(栽培面積2ha以上)及び施設園芸経営(海匠地域キュウリ・イチゴ)へのアンケート調査データに基づき、家畜糞堆肥の機能に関する意識を調査分析し、明らかになったのは以下の点である。

(1) 家畜糞堆肥の土壌改善的機能と肥料的機能に対する意識(図1)

家畜糞堆肥の「土壌改善的」機能と「肥料的」機能の重視度合いを質問した結果、「やや土壌改善効果を重視」に最大のピークが、「やや肥料効果を重視」に次のピークが存在するが、総体的には「土壌改善効果」に対する意識が優勢である。

(2) 利用家畜糞堆肥の畜種、機能に対する意識、利用上の問題点等の位置付け(図2)

利用している家畜糞堆肥の畜種、機能に関する意識、家畜糞堆肥利用上の問題点等に関する回答に数量化理論類を適用し、得られた各項目間の近接性から解釈した畜種別の傾向は次のとおりである。

ア 豚糞系資材(図内「X領域」): 土壌改善効果と肥料的効果との中立的な位置付けで、堆肥素材として保管利用される傾向、臭気や腐熟度合いが問題とされる傾向がある。

イ 牛糞系資材(図内「Y領域」): 土壌改善効果が重視され、腐熟度合い、塩分、雑草種子混入などが問題とされる傾向がある。

ウ 鶏糞系資材(図内「Z領域」): 肥料としての位置付けが比較的明確で肥料との同等性を求め、価格や表示などを問題とする傾向がある。

2. 以上の調査分析から見て、堆肥の販売戦略上、以下の点が重要である。

(1) 牛糞系及び豚糞系では、個別供給者が訴求すべき堆肥機能の明確化を図るとともに、臭気や施用による各種障害原因の除去を確実にすることが課題となる。

(2) 鶏糞系は、肥料的機能を特性とした明確な位置付けを確保しており、コストパフォーマンス、表示、品質保証の明確化が課題となる。

[留意事項]

調査対象の栽培面積2ha以上露地野菜経営は、結果として北総地域が中心となった。

[普及対象地域]

県下全域

[行政上の処置]

[普及状況]

[成果の概要]

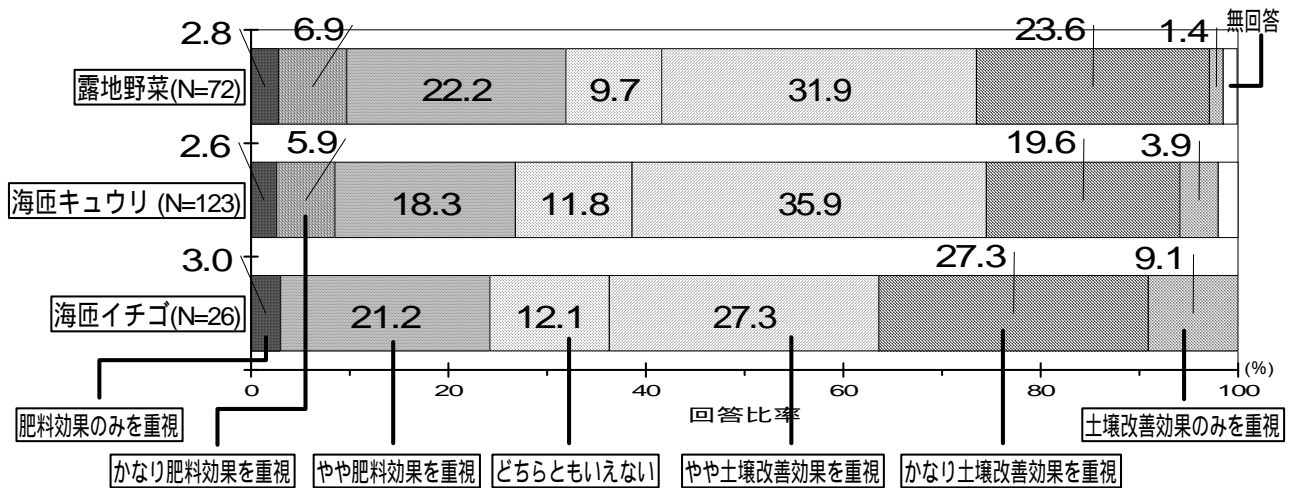


図1 家畜糞堆肥の「土壌改善的効果」と「肥料的効果」の重視度

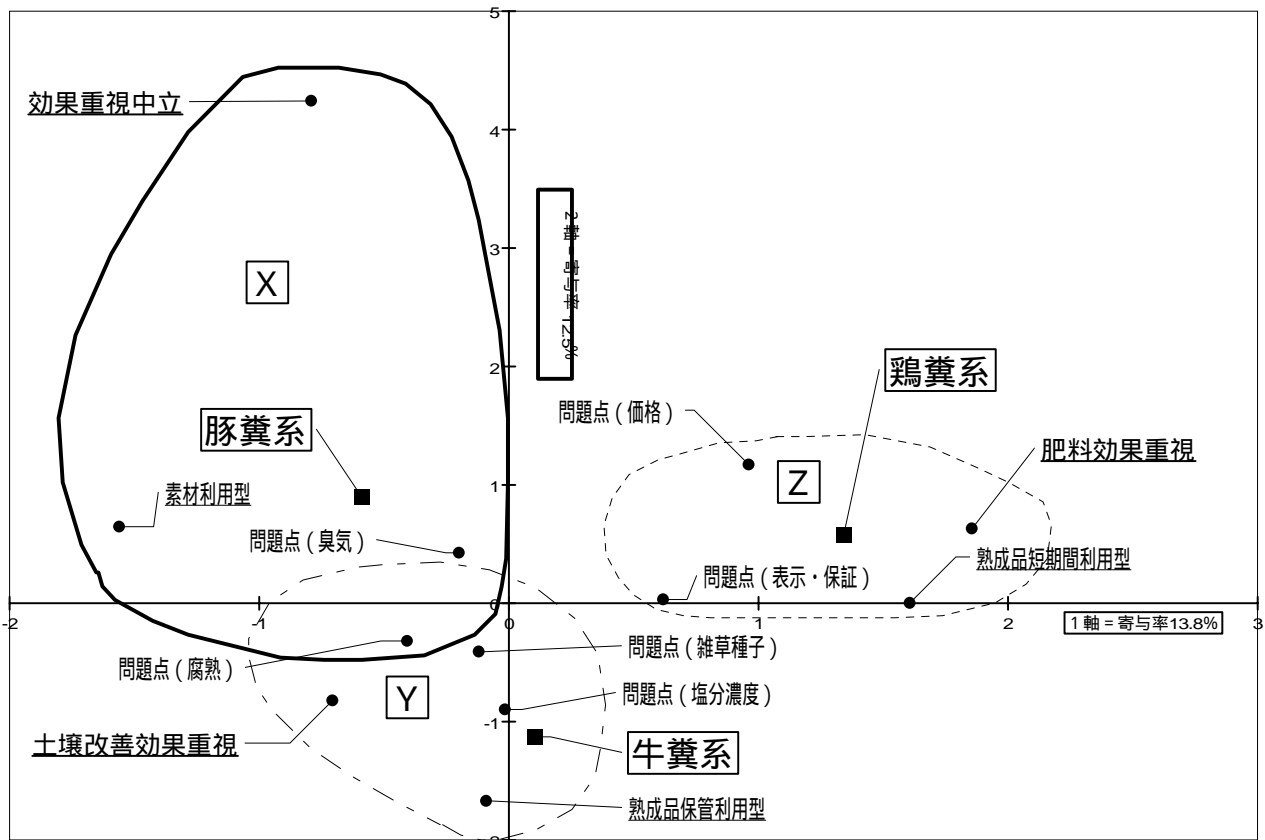


図2 数量化理論 類による家畜糞堆肥の畜種、機能、利用上の問題点等の位置付け

[発表及び関連文献]